

試聴会・訪問記掲載

シマムセンオーディオ試聴会 (2017.5.27)

—アキュフェーズのアンプ試聴会—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催されたアキュフェーズのアンプの試聴会に行ってきました。

2. 使用機器



A250



C3850



DP950



DC950



YAMAHA NS-5000



AT-ART1000



PD-171A



当日のセッティング

3. 試聴会の進行

試聴は、A250 の開発経緯、設計思想ならびに下記の特徴についてパネルや基板、部品の提示を交えながら詳細な説明を挟んで行われました。

1)ダンピングファクターのアップ

2)低雑音化

3)スペックに現れない音質への影響に関するパーツの選定や配置の見直し

ダンピングファクターはカタログ値の 1000 は A200 とは変わっていませんが、実測で 1083 から 1494 程度になっているそうです。低雑音化についても $11\mu\text{V}$ から $9\mu\text{V}$ になっているそうですし、パーツについては、電解コンデンサーのように設計からやり直したものや、世界中から選定をしているとのことでした。

最初に、ワルキューレの序曲がかかりましたが、クリーンで解像度があり、広がり感も申し分ないものでした。しかし、おそらくスピーカーの問題だと思われませんが、低音がこもりがちで、それが全体の品位を落としているのは残念でした。ジャズを挟んで、サンサーンスの 3 番がかかりましたが、先程のワルキューレと同様で、オルガンやグランカッサは不満が残りました。

アナログの石川さゆりから、再び CD に戻ってピアノの連弾がかかりましたが、少し生音からずれた感じで、それが録音なのか、スピーカーの個性なのかがわかりませんでした。次のカウントペーシーはクリアーでスケール感もあり、楽しめる感じでした。ヨー・ヨー・マのチェロもかかりましたが、もう少し艶が乗ってほしい印象でした。ここでクリーン電源の PS-1230 の説明があり、女性ボーカルでの C3850 の電源を PS-1230 を通す、通さない、のデモがありましたが、効果は一聴して分かるほどで声や楽器の質感の違い、ディテールの表情の向上が明白でした。

今回のアンプの A250 は非常に真面目な設計で、そのことが音に現れているようでしたが、スピーカーが A250 の真価を発揮するのを妨げていたように感じました。また、選曲がステレオサウンドのデモ音源のようなものに偏り、もっと音楽性の豊かなものを選んで欲しかったし、アナログのデモを多くして欲しかったと思います。終わってみれば、クリーン電源の効果が一番印象に残っています。

以上